

## 2.4. 転出の動機について

転出の動機の把握のため、転出のきっかけ（問7）、転出先の選定理由（問8、問9）、転出前後での変化（問10、問11、問12）を確認した。

### 2.4.1. 転出のきっかけ

転出のきっかけについて、影響の大きい順に3つまで回答をしてもらい、1位、2位、3位の順に3点、2点、1点と得点をつけ評価の高い項目を確認した。結果は、「就職」、「転勤」、「結婚」が上位であった。各回答の順位ごとの比率は下図のようになった。

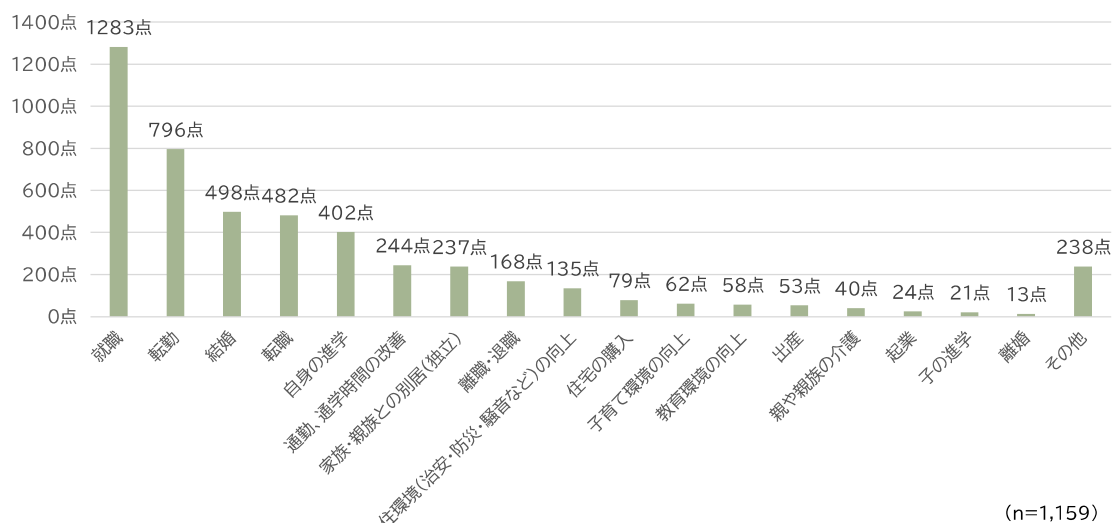


図 2-11 転出のきっかけ(総合順位)

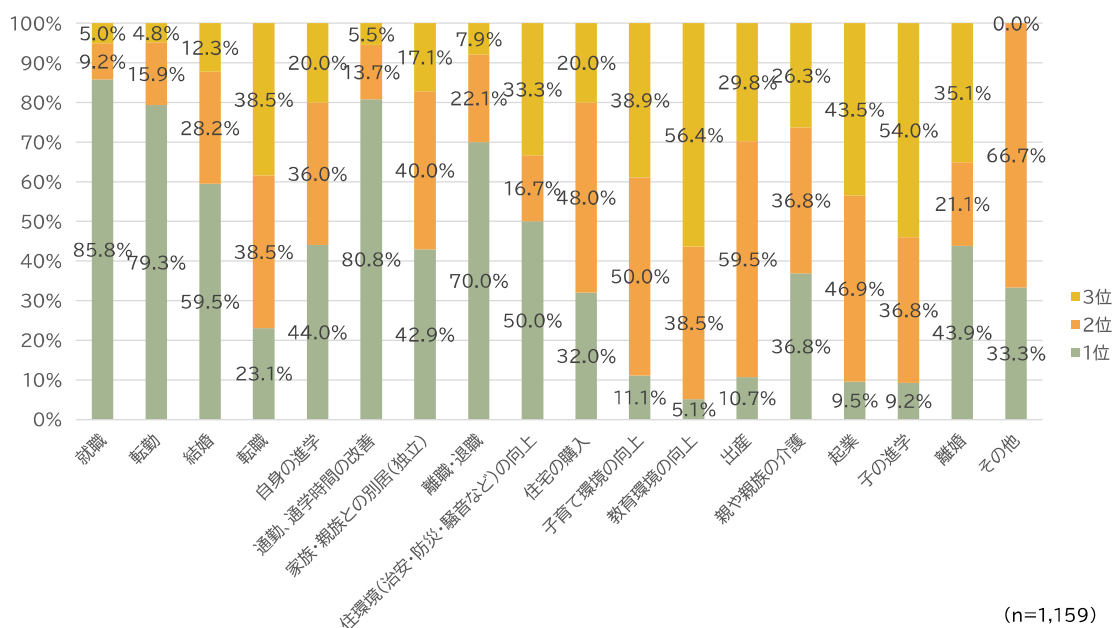


図 2-12 転出のきっかけ(各設問の順位比率)

「その他」と回答した場合には、具体的な理由を自由記述により確認した。全体で108件の記載があった。その他の理由では、「同棲」が21件と多く、次いで「卒業/進学/就職」、「家庭の事情」となっている。

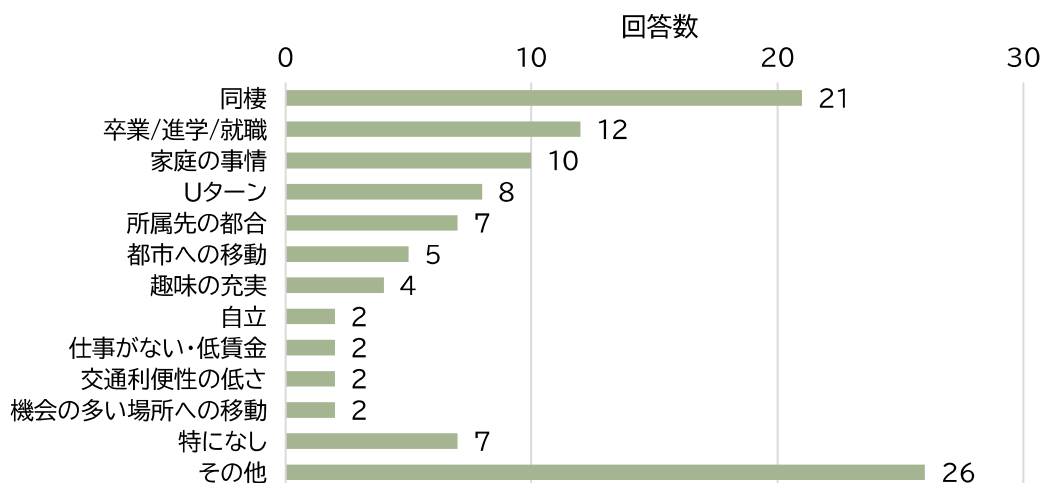


図 2-13 転出のきっかけのうち「その他」の自由記述内容

#### その他の内容

気候が苦手、人間関係の問題、住みにくかった、自然が少ない、療養、マナーが悪い、市政への不満、住民票を移していなかった、等

転出のきっかけとして第1位と選択された項目について、男女別の回答をみると、男女ともに「就職」が最も多く、次いで男性は「転勤」、「自身の進学」であったが、女性は「結婚」、「転勤」であった。

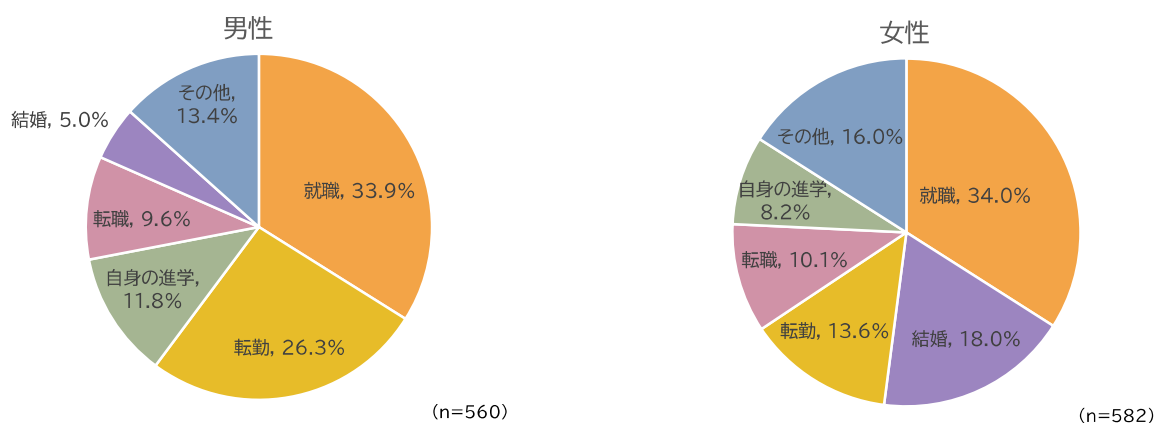


図 2-14 転出のきっかけ(男女別:第1位と選択した項目)

同様に、転出のきっかけとして第1位と選択された項目について、年齢別の回答をみると、18、19歳で「自身の進学」、20～24歳で「就職」、その他の年代では「転勤」が最も多かった。次いで18、19歳で「就職」、20～24歳で「自身の進学」、25～29歳と35～39歳で「結婚」、30～34歳で「転職」であった。

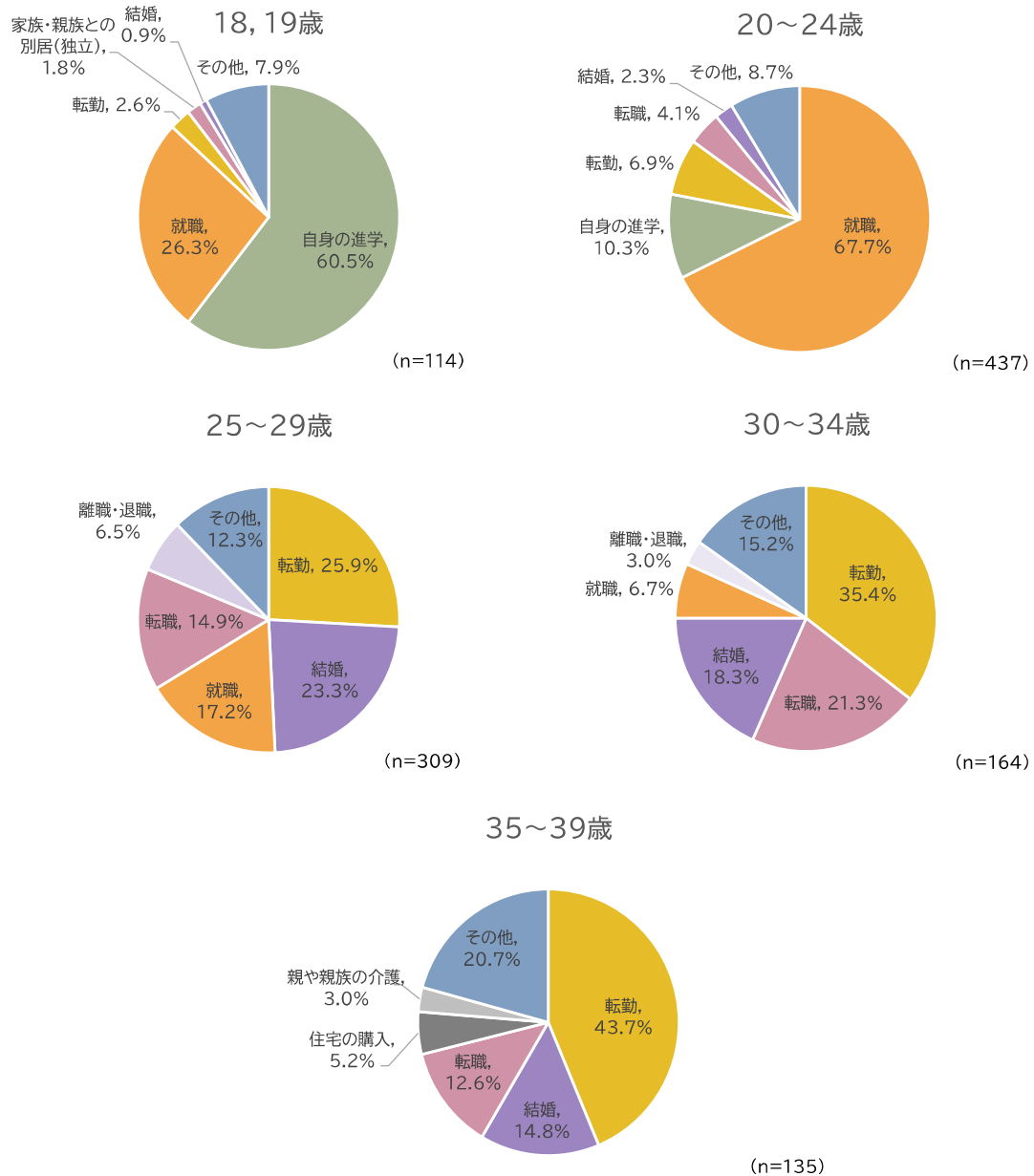


図 2-15 転出のきっかけ(年齢別:第1位と選択した項目)

## 2.4.2. 転出先の選定理由

### (1) 転出先の選定理由

転出先の自治体の選定理由について確認したところ、「通勤・通学の交通の便が良い」ことが最も重視されており、26.6%を占めていた。その他の項目としては、「住宅が用意されていたから(社宅、家族と同居、家族の持家)」が17.6%、「配偶者が住んでいた、または親族・知人が近くに住んでいる」が15.0%であった。

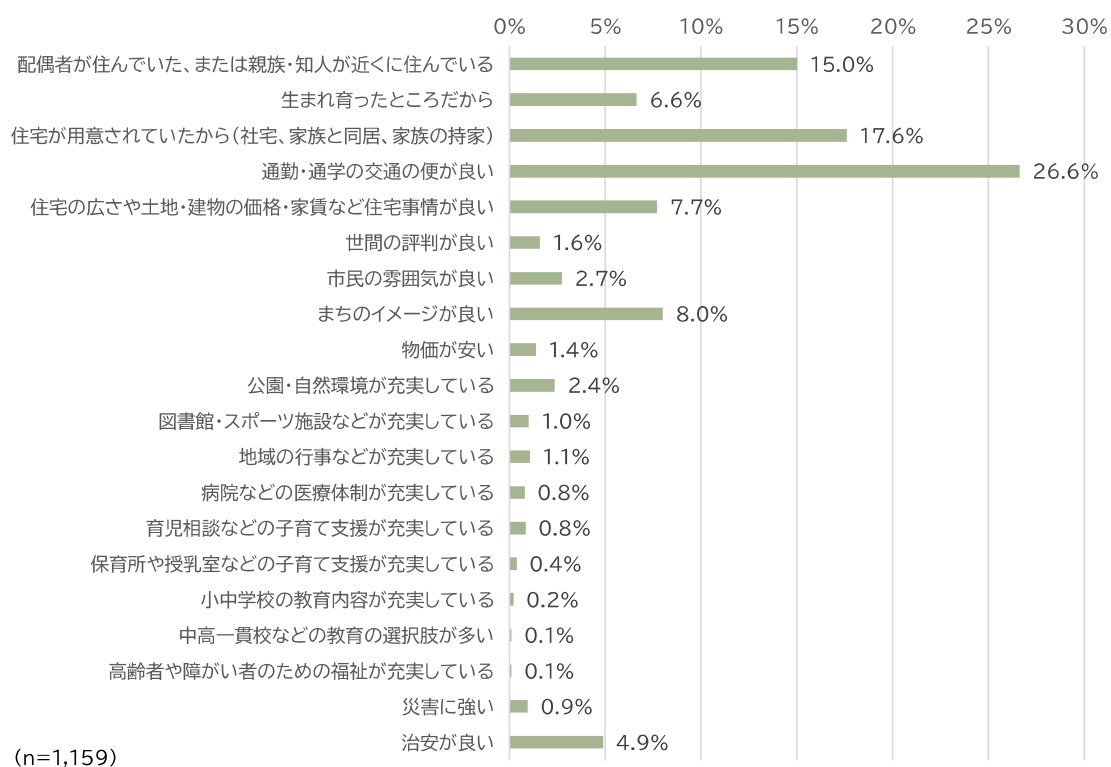
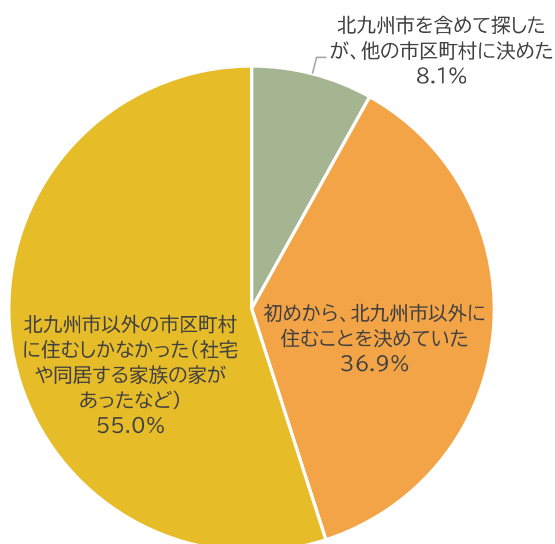


図 2-16 転出先の自治体を選んだ理由

## (2) 転出先の検討状況

また、新たな住まいを探すときの検討状況について確認したところ、「北九州市以外の市区町村に住むしかなかった（社宅や同居する家族の家があったなど）」が最も多く 55.0%であった。次いで、「初めから、北九州市以外に住むことを決めていた」が 36.9%、「北九州市を含めて探したが、他の市区町村に決めた」が 8.1%であった。



(n=1,159)

図 2-17 転出先の検討状況

### 2.4.3. 転出前後の変化

#### (1) 転出前の職業（業種）

転出前後での職業(業種)の変化について確認したところ、転出前で最も多かったのは「学生」で43.8%であった。次いで、「医療・福祉」が9.9%、「製造業」が8.1%であった。

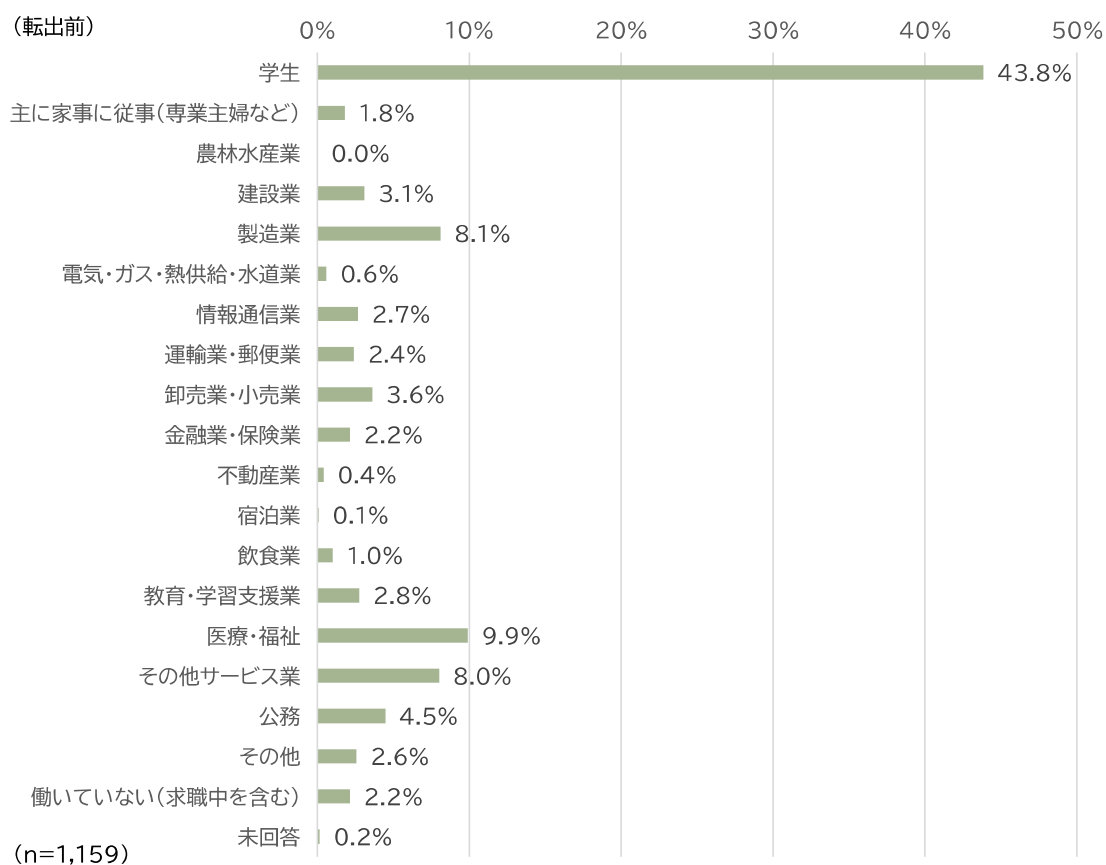


図 2-18 転出前の職種(業種)

## (2) 学生の転出後の職業（業種）

転出前に学生を選択した回答者の転出後の職種（業種）は、「医療・福祉」が最も多く、18.9%であった。次いで「製造業」が18.6%、「情報通信業」が14.0%であった。なお、転出後も「学生」と回答した数は除外している。

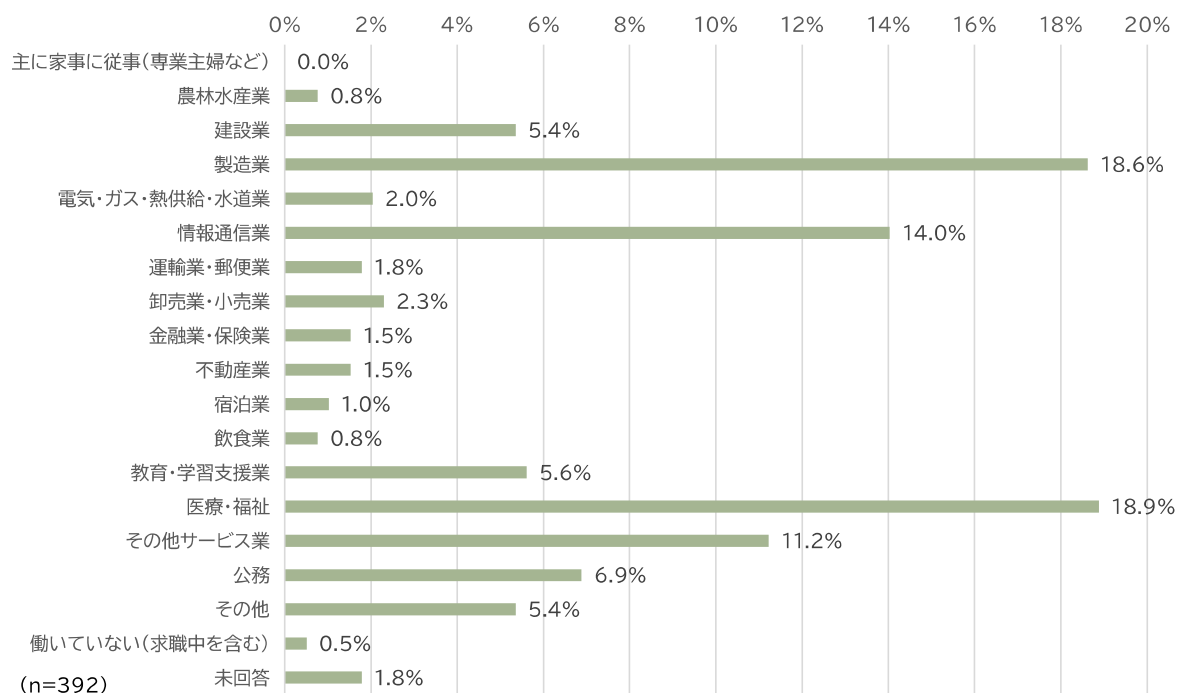


図 2-19 学生の転出後の職種（業種）

### (3) 転出前の通勤・通学時間

転出前後の通勤・通学に要する時間について、転出前は「30分未満」が51.2%で最も多く、次いで「30分以上～1時間未満」が27.4%、「1時間以上～1時間30分未満」が10.8%であった。

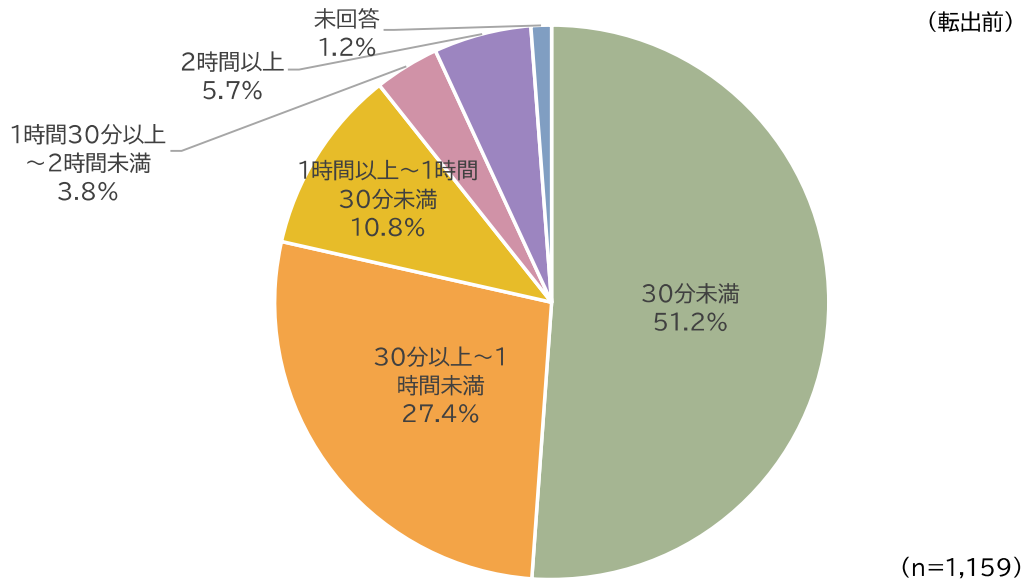


図 2-20 通勤・通学時間(転出前)

### (4) 転出後の通勤・通学時間

転出後については、「30分未満」が57.6%と最も多く、次いで、「30分以上～1時間未満」が26.5%、「1時間以上～1時間30分未満」が8.3%であった。

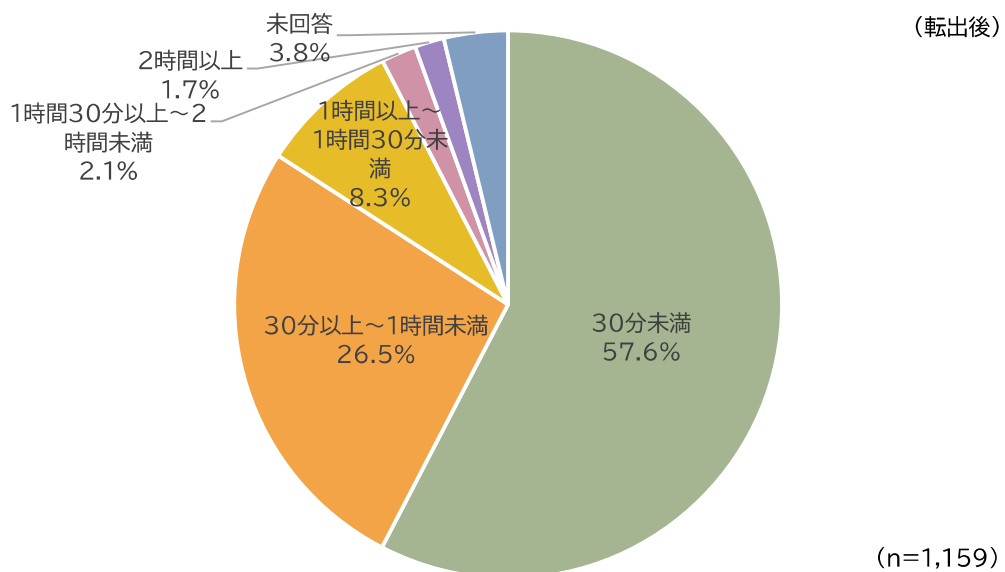


図 2-21 通勤・通学時間(転出後)



### (5) 世帯収入

また、現在の世帯収入を確認したところ、「200～400万円未満」が36.8%と最も多く、次いで、「400～600万円未満」が17.8%、「200万円未満」が10.5%であった。

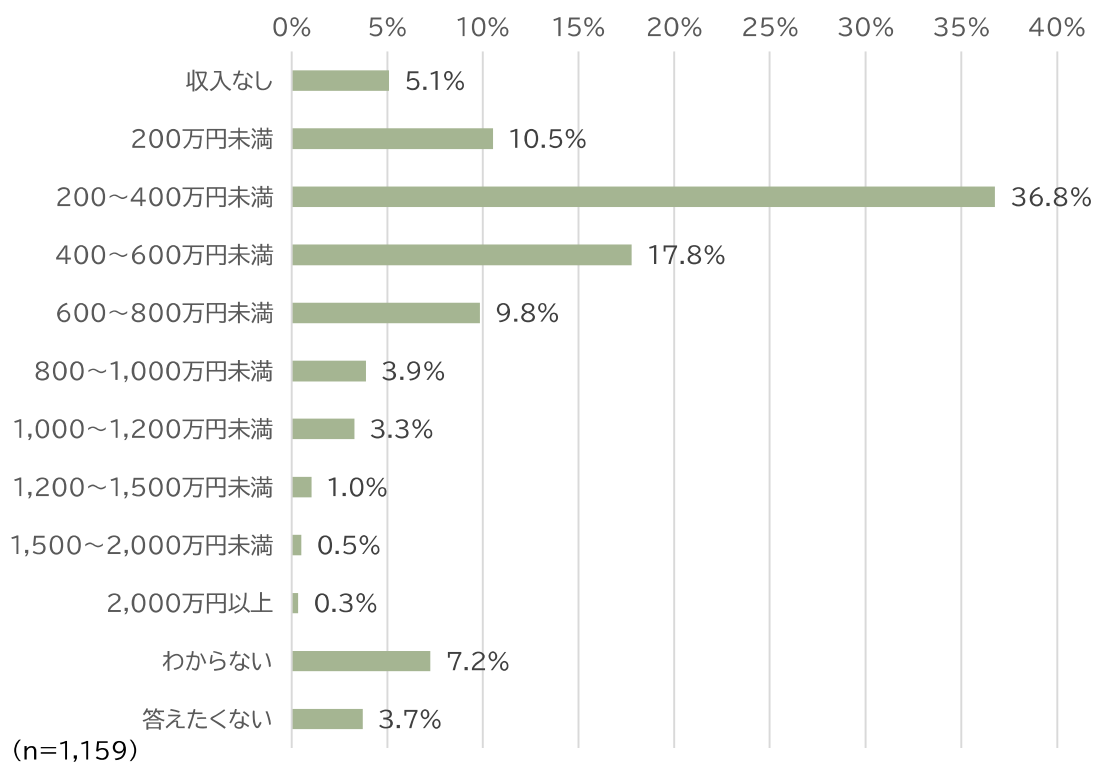


図 2-22 世帯収入

## 2.5. 北九州市への印象

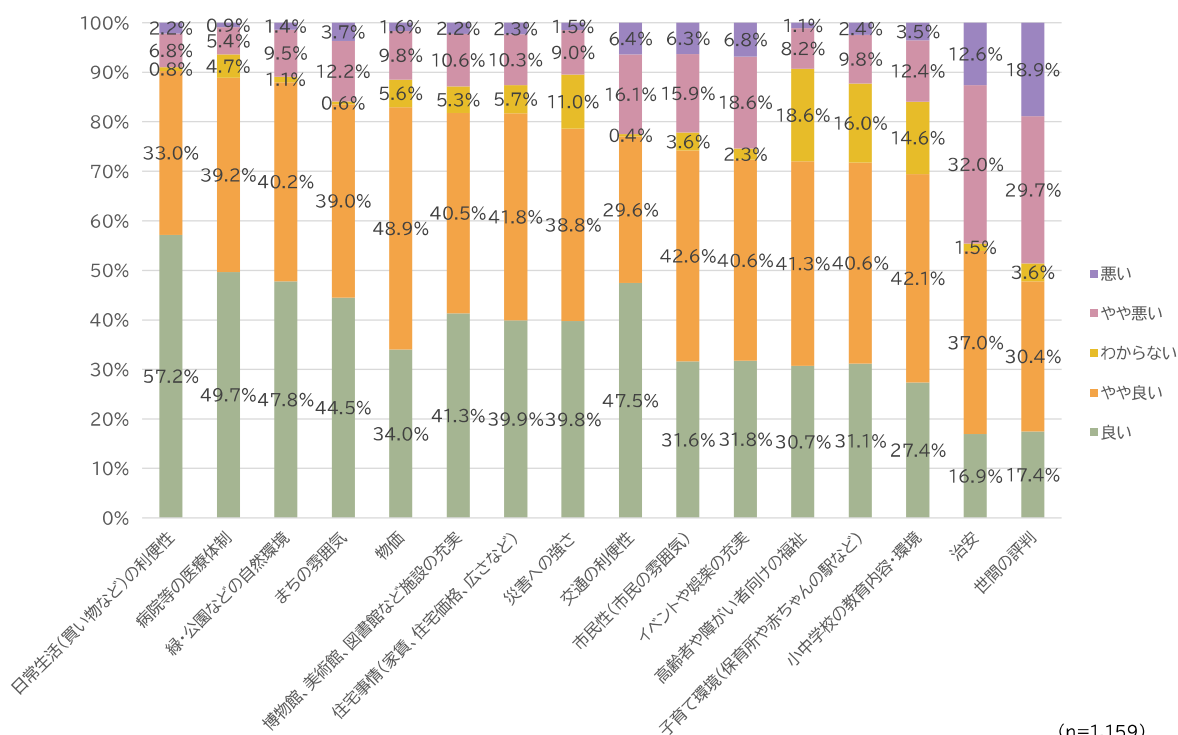
北九州市への印象を把握するために、各項目の評価（問 13）を確認した。

### 2.5.1. 北九州市への印象

北九州市に住んでいたときの印象を、各項目で「良い、やや良い、わからない、やや悪い、悪い」の5段階での評価を行った。

「良い」と「やや良い」の合計をみると、「日常生活（買い物など）の利便性」が90.2%であった。次いで「病院等の医療体制」が88.9%、「緑・公園などの自然環境」が88.0%であった。

一方で、「治安」は53.9%、「世間の評判」は47.8%との評価で、「悪い」と「やや悪い」との合計も、「治安」が44.6%、「世間の評判」が48.6%であった。



(n=1,159)

図 2-23 北九州市に住んでいたときの印象

男女別に「良い」と「やや良い」の合計をみると、男性は「病院等の医療体制」、「日常生活（買い物など）の利便性」、「緑・公園などの自然環境」の順に評価が高く、女性は「日常生活（買い物など）の利便性」、「緑・公園などの自然環境」、「病院等の医療体制」の順に評価が高かった。

一方で、「悪い」と「やや悪い」の合計では、男性は「治安」、「世間の評判」、「イベントや娯楽の充実」の順、女性は「世間の評判」、「治安」、「イベントや娯楽の充実」の順に評価が低かった。

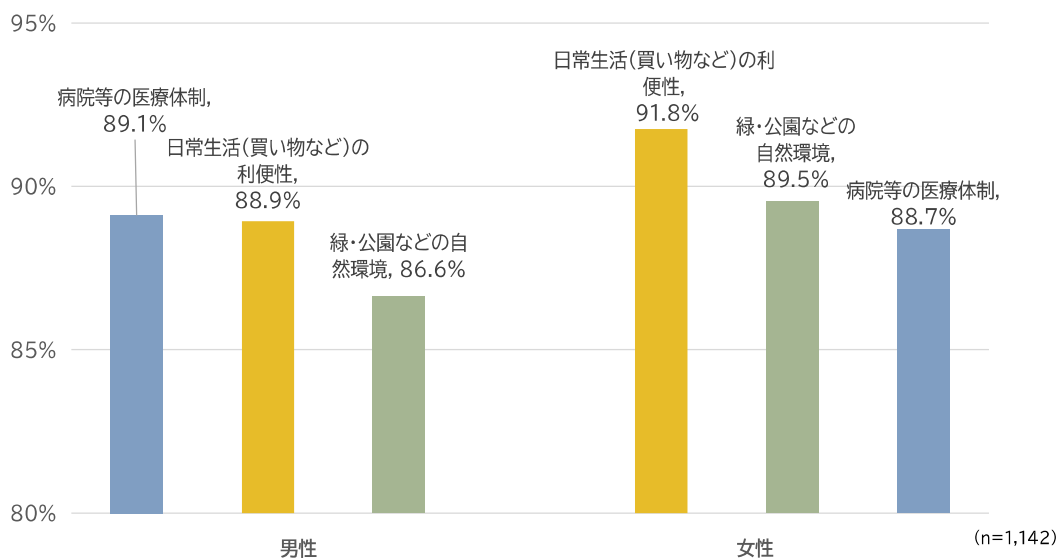


図 2-24 北九州市に住んでいたときの印象(男女別:上位3位)

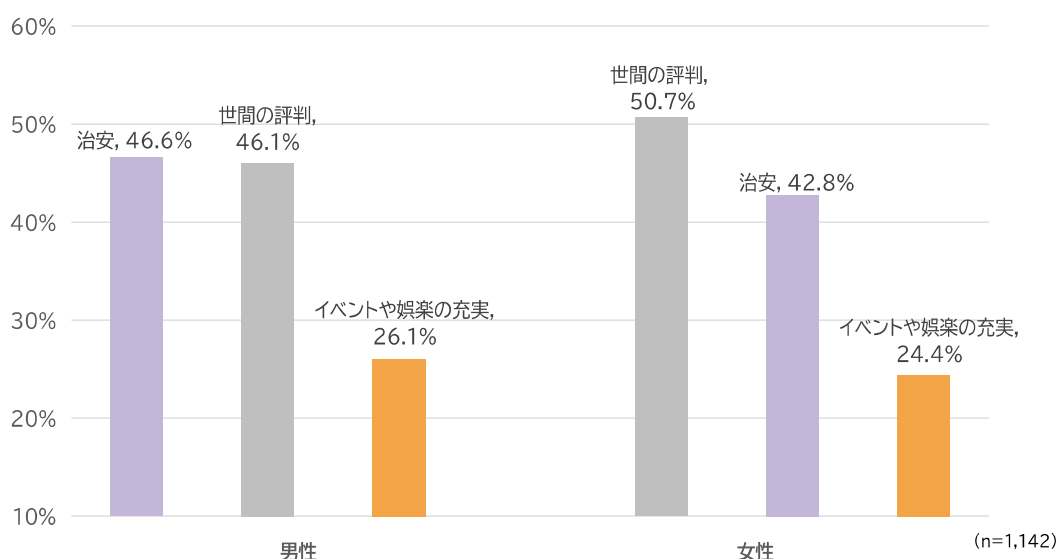


図 2-25 北九州市に住んでいたときの印象(男女別:下位3位)

年齢別に「良い」と「やや良い」の合計をみると、30～34歳以外の全ての年齢層で「日常生活（買い物など）の利便性」が、30～34歳では、「病院等の医療体制」が第1位であった。第2位、第3位は、18、19歳、20～24歳、25～29歳は、「緑・公園などの自然環境」、「博物館、美術館、図書館などの施設の充実」、30～34歳は、「日常生活（買い物など）の利便性」、「緑・公園などの自然環境」、35～39歳は、「病院等の医療体制」、「緑・公園などの自然環境」であった。

一方で、「悪い」と「やや悪い」の合計では、18、19歳以外の全ての年齢層で「世間の評判」が、18、19歳では、「治安」が第1位であった。第2位は18、19歳で「世間の評判」、それ以外の年齢層で「治安」であった。第3位は18、19歳、20～24歳、25～29歳は、「イベントや娯楽の充実」、30～34歳、35～39歳は、「市民性（市民の雰囲気）」であった。

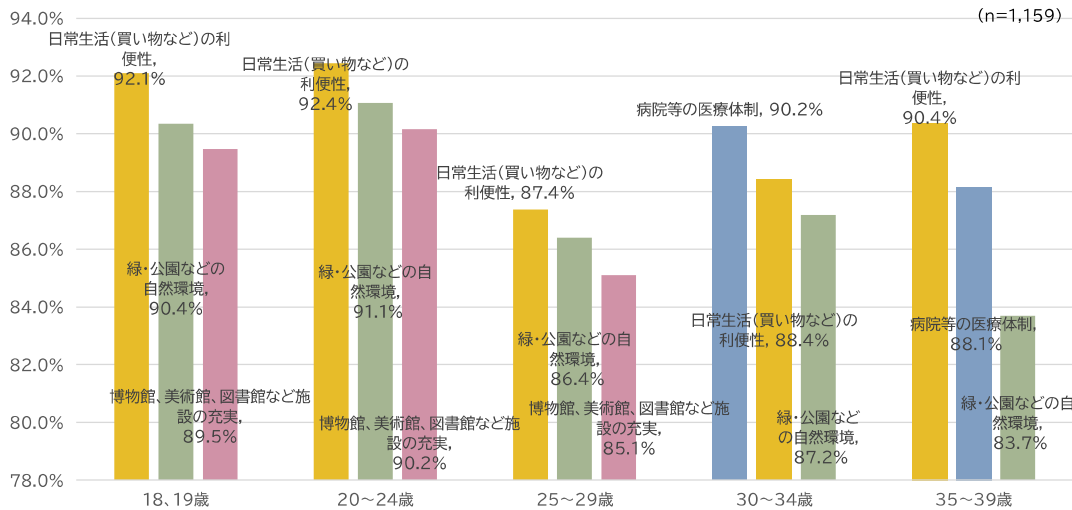


図 2-26 北九州市に住んでいたときの印象(年齢別:上位3位)

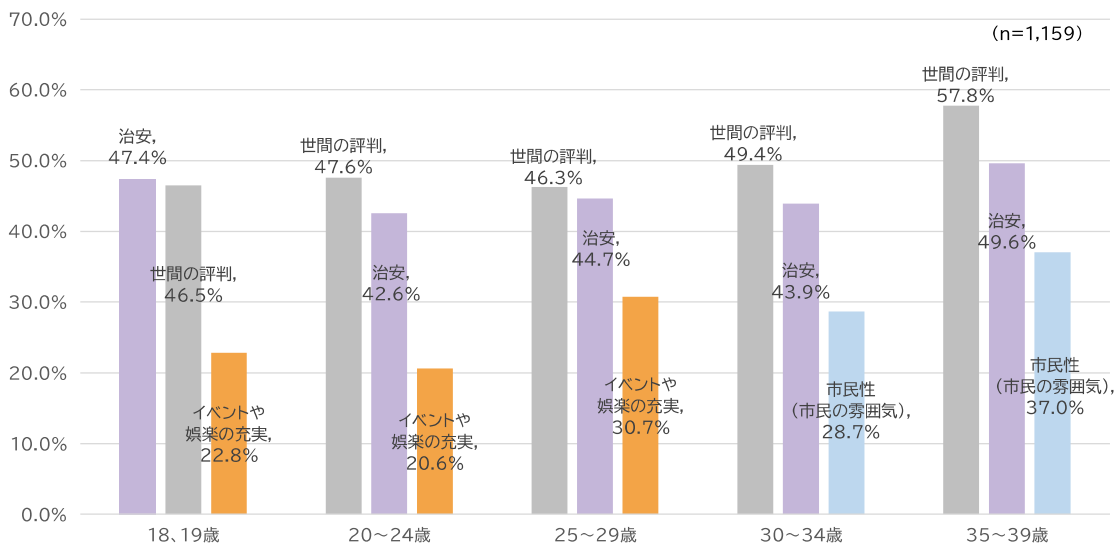


図 2-27 北九州市に住んでいたときの印象(年齢別:下位3位)